2019 年 4 月 11 日
カンロ株式会社

東日本大震災　カンロの CSR 活動

福島県で出前授業と被災地見学をしてきました。

東日本大震災から 8 年の月日が過ぎました。福島県は津波と原子力発電所事故により大きな被害を受け、当時多くの住民が避難を強いられましたが、現在では徐々に復興が進み、新しい町の建設も進んでいるといわれています。2018 年 11 月 17 日、カンロは福島県いわき市で出前授業と被災地見学をおこないました。これからの未来を担う子供たちへの支援と、被災地見学を通じて弊社社員が被災地の現状を知り、自身の生活や、今後の支援を考え、学ぶきっかけを作ることを目的に実施いたしました。

■福島県いわき市について

いわき市は福島県浜通りの南部に位置し、人口 30 万人を超える同県中核都市で、古くは国内有数の炭鉱地として日本の経済成長を後押ししました。近年では、リゾート施設スパリゾートハワイアンズを筆頭に、アクアマリンふくしま、いわき湯本温泉など多彩な観光資源を有しています。東日本大震災では震度 6 弱を観測、死亡者は関連死を含め 467 名、市内外を含めて避難している方は 22,547 名にのぼっています（いわき市役所発表 2019 年 4 月 3 日時点）。

■未来を担う子供たちへのキャリア教育

オリジナル教育プログラム「カンロ飴を届けよう～キャンディの裏側～」をいわき市立御厩小学校の４、５、６年生計５６名に実施いたしました。

弊社は、創業から１００年以上に亘り、「キャンディが人と人がつながるきっかけとなってほしい」との想いをもって、カンロ飴やのど飴等のキャンディを多くの皆様へお届けしてきました。このプログラムでは、一連の企業活動を通じてキャンディが届くまでにどれだけ多くの人がつながっているかを学ぶことにより、子供たちが自分の考えをしっかり持ち、多様な人とつながっていく人になってほしいという想いを込めています。このプログラムを通して学んだことを胸に、これからの未来を築いてほしいと願いを込めて、実施させて頂きました。

■被災地見学について

被災地見学ツアーを開催しているＦスタディツアー様のご協力のもと、原発 20km 圏内、富岡駅周辺、双葉警察署付近、津波被災パトカー、夜ノ森の桜並木周辺、久之浜沿岸部津波被災エリア地区を案内して頂きました。

帰宅困難地域へ

津波被災パトカー

双葉郡の富岡駅は、震災当時、津波で駅舎が流失し、福島第一原子力発電所事故で警戒区域となり、立ち入り禁止区域に設定されました。８年経過した現在、富岡駅は整備され、新しい住宅が次々と建設されていました。また津波被災パトカーは住民に津波からの避難を呼びかけようとした際に使用し、津波にのみ込まれました。震災遺産として富岡町の公園で屋外展示されていましたが、2019 年 3 月 28 日に一時撤去され、震災と原発事故を伝えるため、町が新たに整備する施設で保存展示される予定です。

■参加した社員のコメント

・子供たちの笑顔と積極性は大きな力になりました。報じられている情報では見えにくい現状を目の当たりにし、現地の方の苦労と前向きさに複雑な思いになりました。自分にできることはないのかなと改めて考えさせられるいい機会となりました。

・子供たちの笑顔がとても素敵で、こちらが元気を貰えました。被災地見学では、放射線が強い地域は本当に車で通過するだけでも、測量計の音が鳴るなど、復興にはまだまだ時間が掛かる現実を痛感しました。途中、津波の避難誘導をして、亡くなった警察官のパトカーの展示をみた時は胸が絞めつけられる思いでした。東京に住んでいると、被災地の現状を見る事は出来ず、少し昔の事のように感じていましたが、今回改めて被災地を訪問出来た事は、自分にとっても良かったです。

・教えに来たつもりが、教えられることの方が多かったです。被災地見学では、全然復興していない現状を目の当たりにして衝撃を受けました。津波や地震の爪痕もまだ残っていますし、生活できる町でもあちこちに放射線の測定器があり、震災以前に訪れたときと比べると少し活気も失われたように感じました。震災を知らない真っ直ぐな世代の目が曇らないように、自分にできることをやっていきたいと思います。

子供たちの元気いっぱいの笑顔から、帰宅困難区域など、いまだにバリケードで封鎖された場所、2011 年 3 月 11 日から時間が止まったままのお店や家。そして震災後に整備された真新しい道路や家、建物に、東京へ戻ってきて数日間にわたり、心が締め付けられたままでした。
あの子どもたちの未来のために、私たちがするべきこと、残すべきことはなんなのか、考えさせられました。
サステナブルな未来を築いていくために弊社は今後も引き続き、東日本大震災の支援を実施していきます。

経営企画部　木村恵子